

新潟・中倉遺跡

なかくら

所在地 新潟県北蒲原郡中条町中倉

調査期間 第六次調査 一九九九年（平11）四月～七月

発掘機関 中条町教育委員会

調査担当者 吉村光彦

遺跡の種類 集落跡・自然流路

6 遺跡の年代 八世紀～九世紀、一四世紀～五世紀

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

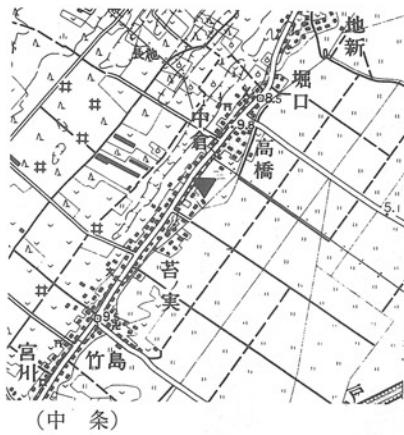
遺跡は、砂丘列の内側の潟に面して立地している。今回は、集落

のほぼ南東限と考えられる部分とそれに面した潟端を調査した。

古代の遺構は、第三次調査（本誌第二〇号・中条町教

育委員会「中倉遺跡三次」（一九九九年）を参照）と同様、

川跡に遺物を投棄した状況が検出され、「王」など四点以上の墨書き須恵器や石帶二点（輪上帶）が出土している。ただし今回報告する



（中条）

木簡は、その上層より出土しており、中世に属するものと思われる。中世の遺物としては、一四～一五世紀の青磁、瀬戸・美濃、珠洲、土器、瓦質鉢、砥石、漆器、錢などが出土している。

木簡は、調査区の端近くの、川跡中からの出土である。

8 木簡の釈文・内容

(1)



258×40×4 051

完形の木簡で、下方を尖らせているが、先端は1cmほどの幅を残して切り落としている。そして、真中辺りで二つ折りにされている。両面ともびっしりと墨痕が認められ、なんらかの呪符と考えられる。表面は、縦方向に部分的に墨書きが削り取られていることから、用が済んだ後に表面を削り、折ってから廃棄したものと思われる。

なお、木簡の性格については、新潟大学の小林昌一氏・相沢央氏にご教示を賜った。

（水澤幸一）

